

# とうきょう総文に いってきました



東京国際フォーラムで行われた開  
会式で、高校生のミュージカルを鑑  
賞しました。  
ミュージカルが始まり、最初に感  
じたのは「迫力が凄い」でした。同  
じ高校生とは思えないほどの音量や  
ダンスに圧倒され、舞台から目をそ  
らすことができませんでした。

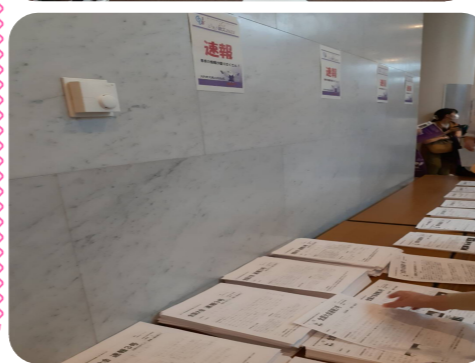
## 庄巻のミュージカル 高知学芸高校 演劇部 2年 藤原 和奏

このミュージカルでは、学校生活  
を舞台にしている、それぞれの悩み  
を（例えば、コロナ禍で文化祭がな  
くなるかもしれないということやク  
ラスに馴染むことができない……な  
ど）一人ではなく、仲間とともに助  
け合いながら解決していくというも  
のでした。

私も一昨年、体育祭が中止になっ  
たり、文化祭が縮小されたりと、新  
型コロナウイルスに対する不満が大  
きかったのでミュージカルを見てい  
ると共感する場面が多かったです。

また、それぞれの好きなものを  
仲間と共有するシーンがたくさん  
見られ、趣味を披露している生徒  
たちはとても生き生きとしている  
ように見えました。

私がこのミュージカルを見て強  
く感じたことは「仲間の大切さ」  
と「誰にでも居場所が必ずある」  
ということです。信頼できる人と  
いうのは自分の身近に必ずいると  
いうことを改めて感じることで  
きた、素晴らしいミュージカルで



## 私たちの未来 土佐女子高校 演劇部 1年 中川 響香

私は、東京総文の視察に行き、多くのこと  
を学ぶことができました。この3日間拝見す  
ることができた部門はわずかでしたが、そ  
の作品から感じられる熱意や思いが私の心  
を魅了しました。  
何かに対して一つでも集中して、だれに  
も負けない思いで成し遂げることのすばら  
しさを改めて感じる事ができました。私  
が想像していた高校生の作品を、はるかに  
上回るものに出会い、驚きと感動でいっぱい  
でした。そして、恥ずかしながら、私は  
東京総文に行くその日まで、熱を込めて作  
られているものを演劇以外で知りません  
でした。  
しかし、どの作品にも、その人それぞれの  
強い思いがあることを学ぶ、よい機会と  
なりました。東京で感じた素晴らしい高  
知の未来につなげていきたい、そう思えた  
3日間でした。



東京の美術専門部の生徒による各県  
をイメージした「のぼり旗」

## 展示部門発表視察について 高知小津高校 放送部 1年 飯沼 大智

私は東京都美術館で開催さ  
れた書道、美術・工芸、写  
真の視察に行ってきました。  
書道に詳しくないため、  
なんて書いてあるのか分か  
らない字や機械のような奇  
麗な字を見ても正直よくわ  
からなかったけれど、直感  
的に若さがにじみ出ている  
などは感じました。

あまり芸術に詳しくなく  
ても写真や絵は、作り手の  
伝えたいことや考えている  
ことが理解できて楽しかつ  
たです。特に写真部門の最  
優秀賞は、構図や被写体、  
メッセージ性などすべてが  
完璧だったと思います。  
この展示部門は自分と同

じ高校生が作ったものとは  
到底思えないものだらけで、  
本当に良い経験をしたなど  
感じています。

東京総文の視察メンバ  
ーは自分よりも年上の先輩が  
ほとんどで、しかも高文祭  
を知らない自分が実行委員  
会に入って大丈夫か心配で  
した。

けれど視察に参加したこ  
とで、私も生徒実行委員の  
一人として今年の高文祭を  
盛り上げて、さらに良い経  
験にしたいと思いました。  
そのためにも最高のものを  
作りたいたいと思っています!!



## おもてなしと受付について 土佐塾高校 軽音楽部 2年 ドリッシー野田 未結

私は東京総文でおもてなしと受付に重点をお  
いて視察してきました。  
一番感じたことは、運営の工夫や思いがた  
くさんあったことです。まず、インタビュー  
で学んだことは運営する各々が内容を理解し、  
何を聞かれても相応しい受け答えができるこ  
とが大切だということです。それだけで見て  
いる方にも熱量が伝わると思いました。  
また、おもてなし弁当の工夫や開会式の手  
話などを見て、人によって異なることはたく  
さんあるので、より多くの人に対応できるよ  
うに、いろいろな面を考慮するというのは高  
文祭でも生かせることだと考えました。  
最後に、受付とおもてなしで一番大切なこ  
とは、東京の高校生たちのような聞き取りや  
すい声と笑顔で接することだと思いました。

## 演劇部門の視察 高知丸の内高校 演劇部 2年 西條 一二子

演劇部門は「なかのZERO」で3日間  
にわたって大会が行われていました。そ  
の2日目の第一上演を鑑賞しました。そ  
の九州ブロック代表の大分三重総合高校  
の作品は、デジタル化が進む未来の設  
定で、階級制度がある世界で差別に苦しむ  
人々の心情や葛藤を高校生が目線で描か  
れた作品でした。  
独特で表現が難しい世界観を見事に表  
現できていて、ここまで仕上げるのに相  
当苦労したんだろうなと思うと、感動が  
さらに増えました。  
ひとつ残念だったのは、ホールが音を  
吸収してしまう造りになっていて、役者

の音が聞き取りにくいと感じました。  
私も高文祭で上演するのですが、この  
ようなことも想定して、発声に磨きをか  
けるために、新しい発声練習や筋力トレ  
ーニングを取り入れたいと思いました。  
上演が終了し、ロビーに戻ると生徒に  
よる講習会が行われていました。速報も  
配布され、上演校の内容やその作品にか  
ける思いなどを知ることができました。観  
客は、メッセージボードに感想などを書  
き込み、リアル掲示板で交流できました。  
大会を盛り上げるために、高校生スタッ  
フや先生方が工夫されていて楽しめる会  
場づくりがされていました。  
演劇の出演者として、そして、来年高  
知で行われる四国大会や高文祭の開会式  
の運営をするうえで、学びの多い視察を  
体験することができました。